

実施日：令和元年6月13日（木） コマ：2

事業名：道路事業（直轄・交通安全対策）

とりまとめ結果：事業内容の一部改善

廃止0名	事業全体の抜本的な改善0名	事業内容の一部改善5名	現状通り1名
------	---------------	-------------	--------

【とりまとめコメント】

- 対策箇所の選定の仕組みはよくできているように思われる。
- 対策箇所の選定の透明化や多様な関係機関の関与という点で改善が進んでいるという印象。さらに制度を深化させていくべき。
- 埋蔵文化財調査に多額の費用を要しており、費用の削減に向けてより効率化できるよう検討すべき。
- 対策箇所の選定に関して選定委員会の役割は重要。メンバーに、基礎自治体も加えて、現場に近い声を取り入れられる仕組みにすべき。
- 予算の繰越が多いが、人命にも関わる事業であるため、繰越を減らしていくことが必要。
- アウトカム指標については、実績も40%を超過しており、もっと高く設定してもよいのではないか。
- 土地収用を可能とする局面を作るなど、用地買収の促進を図るべき。

【外部有識者の主なコメント】

- ・ 対策箇所の選定等の仕組みは良くできているように思う。
- ・ 箇所付け決定の透明化や多くの省庁の関与という点で改善が進んでいるというのが第一印象。継続的にPDCAのC→Aを実施し、さらに制度を深化させてほしい。
- ・ 埋蔵文化財発掘調査は1平米58,000円前後であってかなり高く、より効率的にできるはず。
- ・ 事故ゼロプランの策定が適切になされていることを前提とすれば、その実施事業のあり方は基本的に現状通りで良いと考えている。ただし、当該前提が成立するには、委員会のメンバーが当該地域の交通問題を正確に理解している立場の者であることが必要である。
- ・ 事故が起きる箇所にもっとも密接なのは基礎自治体なので、その現場の声がもっと通る仕組みを作るべき。
- ・ 予算の繰越が多い。人命にも関わる事業であるため、繰越が発生しないように箇所付けの精緻化を図っていただきたい。
- ・ アウトカムの30%については、実績も40%を超過しており、これより高めに設定しても良いのではないか。